

スタッフオーレンの奥様

おくさま

LEVEL
3



これは、オランダのフリースランド地方ちほうのスタ
フォーレンという町のお話です。

昔むかし、スタフォーレンには大きな港みなとがありまし
た。町まちの人達ひとたちは船ふねでその港みなとから世界せかいのいろい
ろな国くにに行って物ものを売うったり買かったりしました。

そして、とてもお金持かねもちになりました。スタ
フォーレンの人達ひとたちは金かねを持もっている事ことが一番いちばん
幸しあわせな事ことだと思おもっていました。

この町まちの一番いちばんのお金持かねもちは、ある奥様おくさまでした。



ご主人しゅじんが数年前すうねんまえに亡なくなつた後あと、お金かねをたくさん持もつていました。

そして、いつもキラキラの宝石ほうせきがついた洋服ようふくを着きて町まちを歩あるいていました。

ある日ひ、奥様おくさまは年寄としよりで、良く働はたらく船長せんちょうを呼よんで言いいました。

「世界中せかいじゅうを回まわって、私わたしのために世界せかいで一番いちばんきれいで値打ねうちがあるものを見みつけて来て。一生懸命いっしょうけんめい探さがすのよ。そして一年いちねんあとで、ここここに戻もどって来て」



せんちょう
船長はしばらくの間じっと考えてい
あいだ
かんが

ました。

「この世の中で一番きれいで値打ちが
よ なか いちばん
あるものってなんだろう。どうやって

見つければいいんだろう」

せんちょう
船長はよく考えてから答えました。
かんが
こた

「わかりました、奥様。世界中を
おくさま
せかいじゅう

まわ
回って一番きれいで価値がある物を
いちばん
かち
もの

探して来ます」

そう言っ、次の日、船長は船で港を出て行きました。
い
つぎ ひ
せんちょう
ふね
みなと
で
い



この話はすぐに町中の噂になりました。

町の人みんな

「船長はどんな物を持って帰って来るのだ

ろう」

と話していました。

スタッフオーレンの人たちも奥様も船がいつ帰って来るのか、とても楽しみに待っていました。





船長は、船で東や西に行つ

ていろいろな物を見ました。

たとえば、金や銀のブレスレッ

トや指輪。ダイヤモンドやル

ビー。それから美しい絨毯、

絹の布、インドの象牙などで

す。

それらは全部きれいで値打ち

があるものでした。

でも、船長はそれが世界で一番値打ちがあるとは思いませんでした。

こうして、もうすぐ約束の一年になりました。

船長せんちょうが乗のった船ふねはバルト海かいの小さな港みなとに着つき

ました。船長せんちょうは船ふねを降おりて町まちを見みて回まわりました。

そして町まちはずれに來きた時とき、目めの前まえの景色けしきを見みて

びっくりしました。

そこにはものすごく大おおきな小麦畑こむぎばたけが広ひろがって

ました。小麦こむぎは実みのって、波なみのように風かぜにゆれて

ました。そして太陽たいようの光ひかりを浴あびて、美うつくしく輝かがやい

ていました。



せんちょう
船長は、

「ああ、なんてきれいなんだ
ろう。これが世界で一番きれ
いで、値打ちがあるものだ。

こむぎ 小麦だ。私たちが食べるパン
は小麦からできる」

おも と思いました。

それで、せんちょう 船長はすぐにふね
もど 戻ってこむぎ 小麦をかい 船にこむぎ
ふね 小麦

をいっぱい乗せてスタッフオーレンにむかいました。





せんちょう おくさま やくそく
船長が奥様と約束してから、ちようど一年にな
ります。

ふね みなと かん
船が港に帰って来た時、

ふね もと
「船が戻ってきたぞ！」

ふね
とスタッフオーレンの人達は叫びました。

せんちょう なに も
「船長は何を持って帰ったのかなあ」

まち ひと
町の人はそう言いながらいつせいに港に走って行

きました。奥様もきれいな服を着て港で船を待ちました。

ふね
船が着いて、船長が降りて来ました。奥様は船長が何を持って来たのか知りた
くて知りたくて、船長をみつけると、すぐに



なに も かえ
「何を持って帰ってきたんだい」

き
と聞きました。

せんちょう
船長は

こむぎ わたしたち ひつよう つく
「小麦です。小麦は私達に必要なパンを作るものです。」

せかい いちばん
これが世界で一番きれいで値打ちのあるものです」

こた せんちょう じぶん み きんいろ かがや うつく
と答えました。船長は自分が見た、金色に輝く美しい小麦

ばたけ はなし
畑の話をしました。ところが、奥様は怒って大きな声でどなりました。

いちねん せかいじゅう
「おまえは、一年も世界中いろいろなところに行って、ふつうの小麦を買って来たとい

うのかい？ おまえはおおばかものだよ。小麦なんて海に捨てておしまい」

い
と言いました。

せんちょう おどろ
船長は驚いて言いました。

す
「捨てるなんてとんでもないです。神様のば

ちがあたります。小麦は私達に一番大切に

ねう
値打ちのあるものです。この美しい輝きが

わからないんですか？」

「うるさい。おまえなんか、どこかに行つて

しまいなさい」

おくさま
奥様がそう言ったので、船長は町を出て行ってしまいました。そして奥様が

こむぎ ぜんぶうみ
「小麦は全部海に捨ててしまいなさい」

い
と言ったのでみんなは小麦をぜんぶ海に捨ててしまいました。



その時、どこからか老人がやって来て奥様にこう言いました。

「奥様、神様の素晴らしい贈り物をすてると、ばちがあたりますよ。良く考えてく

ださい。この世の中には、お腹をすかせ

た貧しい人がたくさんいるのです。あな

たもいつかお金がなくなってしまうかも

しれませんよ。気をつけなさい」

奥様は大きな声で笑いました。そして

自分の指から指輪を取って海に投げて言

いました。





「今、海に投げたあの指輪は絶対に私の所には戻ってくる事はないわ。そして私のお金^{かね}が全部なくなるなんてことも、絶対にないわ！」

ところが、しばらくして奥様がお友だちをた^よくさん呼んでパーティーをした時の事です。

召使^{めしつかい}が大きな魚を料理して持って来て、奥様^{おくさま}がその魚にナイフを入れた時、

「あっ！」

さかな なか うみ す おくさま ゆびわ で
魚のお腹から、海に捨てた奥様の指輪が出てきました

た。二度と戻ってこないと思っていた指輪が戻ってきた

のです。奥様は真つ青になりました。

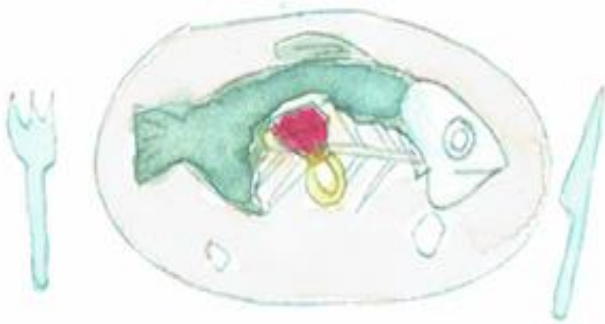
そして次の日、奥様の船が全部海に沈んだという知らせ

が入りました。また、この後から、奥様には次々に悪

いことばかり起こりました。

次の年の春、港に緑色の草が生えてきました。

それは、小麦でした。



町の人が捨てた小麦の芽ができました。その小麦の草はどんどん増えて、最後にはゾイデル海の港が小麦でいっぱいになりました。それで、大きな船は港に入ってくる事ができなくなってしまいました。

スタッフオーレンの町はだんだんさびしくなりました。町の人もお金がなくなって他の町に行ってしまいました。町は死んでしまいました。

あの奥様も、もういません。

海の上には小麦の青い穂だけがありました。



<p>たいとる タイトル</p>	<p>たどく ほん れ べる にほんご多読の本 レベル3</p> <p>すたふおーれん おくさま 『スタッフオーレンの奥様』</p> <p>おらんだみんわ オランダ民話 Het vrouwtje van Stavoren から</p>
<p>ぶん 文</p>	<p>きょうこ コスラ 恭子</p> <p>こせき まちこ 小関 真稚子</p>
<p>いらすと イラスト</p>	<p>いけぶち みずき 池淵 瑞紀</p>
<p>はっこう 発行</p>	<p>おらんだにほんごきょうしかい オランダ日本語教師会</p> <p>https://www.orandanihongokyoshikai.nl</p>
<p>せいさくび 制作日</p>	<p>ねん がつ 2022年12月5日</p>

©オランダ日本語教師会 2022
無断転載・引用は禁止します。

